

仙台西多賀病院 地域医療連携室だより

vol.50

新年のご挨拶



院長 武田 篤



新年を迎えるにあたり当院に於ける最近のトピックスを幾つかご紹介申し上げてご挨拶とさせていただきます。変形性脊椎疾患に対する外科治療については、年々内視鏡を用いた低侵襲手術の実施例数が増えて来ております。そこで今年度は脊椎内視鏡センターを開設し、より一層の充実を図って行くこととしました。また仙台医療センター消化器内科や東北大学病院消化器内科のご協力を頂きながら東北で初めて導入したレボドパカルビドパ水和物持続経腸療法についても、既存の治療でどうしてもコントロールできないパーキンソン病の運動合併症に対して劇的な効果が確認できており、着実に症例を積み重ねております。また医療用ロボットHAL下肢タイプ®を用いたリハビリテーションについても、既存の方法では困難であった神経筋疾患の運動機能を確実に改善させる効果が見られ、お陰様で多くの皆様からご好評を頂いております。最新型のSPECT-CT (SIEMENS製 Symbia Intevo6) についても順

調に稼働しており、既存の機種を超える画像診断が可能となっています。

当院の得意とする分野、目指すべきカテゴリーのキーワードは「障害」であろうと考えております。脳神経・筋・脊椎・関節の機能不全に伴う身体機能の障害、あるいは認知症を含む知的障害に対して最新の診断と治療技術を提供するとともに、在宅を含む最善の療養環境をご提案できる様にすることが目標です。今後とも核医学検査法を含む最新の検査体制の導入とともに、最善の外科的・内科的治療、リハビリテーションをご提供できる様に職員一同研鑽を積み重ねて行きたいと考えております。古くは国民病と言われた結核に罹患された方々の療養を担当して来た時代から、障害を持たれた患者さんに優しく、丁寧な診療を行っていく伝統が当院のすべての医療スタッフに受け継がれています。この一年が当院のみならず皆様にとりましても良い年となりますことを心より願っております。



～仙台西多賀病院の理念～ 「良い医療を安全に、心をこめて」

認定看護師のご紹介

認定看護師とは、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます（日本看護協会ホームページより）。

現在当院で活躍する5名の認定看護師を紹介します。

緩和ケア認定看護師 高橋 寛名

私は現在、重症心身障がい児（者）病棟で看護師長をしております。緩和ケアは終末期やがん患者のイメージが強いのですが、がん患者だけではなく苦痛のある患者様すべてに必要とされています。これから、院内に入院されている患者様の身体的な苦痛だけではなく精神面のケアもスタッフみんなで関わられるような活動をしていきたいと考えております。そして、患者さんの苦痛が少しでも軽減でき、その人らしい生活に近づけるように支援させていただきたいと思っています。



感染管理認定看護師 櫻井 幸子

感染管理認定看護師として患者さんやご家族、そして職員など病院に出入りする全ての人を感染症から守るための活動をしています。患者さんは健康な人とは違い抵抗力が落ちていることが多く、健康な人よりも様々な菌やウイルスに感染しやすい状態となっています。本来の治療や療養に専念していただけるように、確実な感染予防策を実践することが重要だと考えています。そして、感染管理は個人プレーでは成り立たないため、全職員協力のもと感染対策チームは日々活動しています。また、感染症に対して不安を感じることや対応に悩みがあれば相談やご意見も承りますのでお声掛けください。



摂食・嚥下障害看護認定看護師 由利 博美

摂食・嚥下障害とは、疾患や加齢に伴い、食べることや飲み込むことに障害をきたした状態です。当院では、主に神経筋疾患、重症心身障害児（者）の患者さんを対象に、摂食・嚥下機能を評価し、機能維持・向上のための訓練の実施、適切な食事形態の検討や食事姿勢の調整などを行っています。また、病棟からの看護ケアや口腔ケアに関する相談や、指導・院内研修を実施し、摂食・嚥下障害に対するスタッフの知識・技術向上のために活動しています。口から食べるということは、生きる活力に繋がります。一人でも多くの患者さんが、口から食べるということを諦めない看護を提供していきたいと思っています。



認知症看護認定看護師 佐々木 菜央

認知症看護認定看護師の活動の目的は「認知症看護の質向上」です。認知症の方は新しい環境に対応するのが難しく、慣れない入院生活によって認知症の悪化やせん妄を起こしてしまう場合があります。それを予防し、少しでも安全で安楽な入院生活となるよう、病棟スタッフと協力しながらその人らしさを大切にケアを日々検討しています。認定看護師1年目でまだまだ未熟なところばかりですが、今後は認知症疾患医療センターの一員として、認知症の方とその家族のサポートができるよう、院内だけでなく地域でも活動していきたいと考えています。



皮膚・排泄ケア認定看護師 松田 真葉

皮膚は私たちの全身を外部の環境から守っている大切な臓器であり、排泄は毎日の生活に欠かせない行為です。皮膚・排泄ケア認定看護師は、そのような皮膚や排泄に関するトラブルに対して、専門的な知識・技術を用いて予防やケアを行う看護師です。私はH.30年7月に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得しました。まだまだ新米の皮膚・排泄ケア認定看護師ですが、患者さんやご家族の皮膚や排泄に関する悩みを少しでも解決できるよう取り組んで参りたいと思っています。



市民公開講座 「認知症講演会&映画上映会」

仙台国際センターを会場に、認知症の市民公開講座を開催しました。50～70歳代の方を中心に158名のご参加をいただきました。参加された方々は、熱心に聴講されており関心の高さが伺えました。

講演会では、認知症のタイプやその症状、治療、対応の仕方等について講演しました。長寿社会となった日本では認知症が珍しい病気ではなく、正しく理解することが適切な認知症ケアにつながることを周知する機会となりました。

今回のドキュメンタリー映画「ゆめのほとり」は、進行役が不在で、ホームに入所されている方の日常生活を記録したものでした。「ありのままの姿で生きている様子を観て、最後まで人間として生きたいと思った。」「実際の介護を観ることができた。介護する側の接し方も大事と感じた。」「入所している方一人一人が、一生懸命に生きている姿に勇気づけられた。」との感想が寄せられました。“認知症”についてそれぞれが考える機会になった講座でした。併せて認知症疾患医療センターの紹介をさせていただきました。

(医療福祉相談室 保健師 橋谷田 由美)



武田院長：病院紹介



大泉医長：認知症疾患
医療センター
紹介



馬場医長：
講演「認知症を正しく
理解しよう」

今回上映した映画

「ゆめのほとり

—認知症グループホーム 福寿荘—

認知症の人は「何もわからない人」ではありません。北海道・札幌市にある認知症グループホーム福寿荘の日常をスケッチした、穏やかで、静かで、優しいヒューマンドキュメンタリー。



分身ロボット「オリヒメ」

遠隔コミュニケーションロボット「オリヒメ」は、カメラ・スピーカー・マイクが搭載されており、患者さんが出かけられない場所へ支援者がロボットを連れて行き、患者さんはベッドサイドでPCやiPadで操作しながら「見たり」「聞いたり」「会話をしたり」一緒にその場にいるかのように、臨場感を感じてもらえることが出来るロボットです。当院では昨年6月から使用しています。今まで、院内行事や院外の音楽祭、あきた病院や東京へも連れて行き使用しました。最近では患者さん主催の、院内コンサート会場へオリヒメロボットを連れて行き、病室でも患者さんがコンサートの様子を見ることが出来ました。コンサート終了後「おもしろいね」「今度一緒にコラボしたいです(^_^)v」と感想をいただきました。現在も患者さん方と楽しみながら使用方法を模索中です。

(療育指導科 児童指導員
島貫 直子)

遠隔コミュニケーションロボット「オリヒメ」です！ベッドサイドの患者さんがPCやiPadで操作し、手を上げたりうなずいたり、拍手をすることも出来ます。



コンサートの様子を
オリヒメロボットを使用し送信中。



「オリヒメ」から送られてくるコンサートの様子を
看護師さんと見ている高橋諒さん。



Vivo²による「音の遊園地?!!」

重症心身障害児・者病棟に11月21日(水)「仙台市文化芸術による子供の育成事業」の一環で、「Vivo²」(ヴィーボヴィーボ)が誕生会行事にあわせて訪問してくださいました。

フルートとピアノの演奏に合わせて、ご家族も参加し、風船を乗せた虹色のパラシュートが上下左右に動くさまは、まさにメリーゴーランド！

また、お馴染みの「♪手のひらを太陽に」のほか何曲か一緒に歌をうたいましたが、患者さんはもちろんのこと、ご家族も目を輝かせながら歓声を上げ楽しいひとときを過ごすことができたようです。

長期療養生活を送っている患者さんにとって「Vivo²」のような外部ゲストは、生活に潤いをもたせることができることから魅力のひとつと考えます。今後も患者さんのために楽しい企画をしていきたいと思ひます。

(療育指導科 保育士 八柳 比呂美)



平成30年度 国立病院機構QC活動奨励表彰 「グループ特別優秀賞」を受賞！

サークル名：監査にまけない 適正な診療記録を目指して～一般病棟用の重症度、医療・看護必要度編～

チーム名：きろく100%

メンバー：[医事室] 秀城克美（リーダー）、佐々木恵子、金沢友美、山内敬

[看護部] 武田由美子、佐賀由美子、眞田富美子

取組要旨：一般病棟入院基本料（現在、急性期一般入院料）決定の根拠となる「重症度、医療・看護必要度」は、医療機関の経営面や組織体制面などを考慮する大きな指標になっています。また、施設基準であるため、適時調査（監査）の対応は必須であり、さらに、平成28年10月より診療データに看護必要度評価「Hファイル」の提出が義務化された事に伴い、適正な診療記録と評価を目指し、QC手法に則って診療情報管理士主導で取り組みました。「重症度、医療・看護必要度」は院内研修をうけた看護師等が評価するルールであるため、定期的に院内研修会を開催し、診療情報管理士からは制度の説明、電子カルテ記録のルールや効率的な入力方法を伝達しました。病棟看護師は看護記録と毎日の評価を徹底すること、診療情報管理士は診療録と評価の整合性を確認し、修正が必要な場合は、病棟へフィードバックする体制を構築しました。煩雑な業務を少しでも軽減できるように看護記録は電子カルテ特有の「テンプレート」を利用することで入力形態を簡素化でき、記録内容も標準化に成功しました。その結果、記録のものがなくなり適正な診療録、正確な看護必要度評価となりました。

リーダーからひとこと：病棟看護師さんたちが看護必要度のプロになるまで、私はあきらめません。そして診療情報管理士ができることをこれからも続けていきます！



本部表彰式の様子



サークルメンバー

地域医療連携室からのお知らせ

当院の外来診療は予約制を実施しております。受診予約の方法は以下のとおりとなっております。予約の取得については地域医療連携室へご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

このたび予約方法および「患者紹介用紙（紹介医→地域医療連携室）」の一部が変更となっております。当院ホームページまたは地域医療連携室にてご確認くださいませようお願い申し上げます。

「患者紹介用紙（紹介医→地域医療連携室）」の用紙について

所定の用紙をご用意しておりますのでご利用ください。

この用紙は、地域医療連携室に電話にてご請求いただくか、当院ホームページ<http://www.nishitaga-hosp.jp/>地域医療連携室で利用について「PDF 患者紹介用紙（様式1）」をダウンロードしてご利用ください。

*「紹介状（診療情報提供書）の原本」は必ず患者様に持たせていただき、診察当日「1. 受付」に提出していただくようお願いいたします。

患者様からの電話での予約について

すぐに予約希望日を決められない患者様の場合は、先に「患者紹介用紙（紹介医→地域医療連携室）」をFAXでお送り願います（『電話にて患者様から予約の連絡が入る』）にシ点を記入してください。後日、患者様からの予約電話に直接対応いたします。

* 患者様からご予約いただく際には

①受付時間 平日13:30～16:30

②電話番号 022-245-1810（地域医療連携室直通）
にご連絡くださるようお願いいたします。

外来担当表	区 分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
	整形外科	せぼね	新患	古泉 豊	川原 央		山屋 誠司	国分 正一
			再来	国分 正一	川原 央	古泉 豊	国分 正一	
				両角 直樹		荻名 善博 (第1・3・5週)		
			山屋 誠司	八幡健一郎		田村 則男 (第1・3・5週)		
		関節	新患		田村 則男			
			再来		大出 武彦		田村 則男	
	せぼね・関節		須田 英明	須田 英明	須田 英明	須田 英明		
	側弯症						両角 直樹 ※1	
	脳神経内科	新患	馬場 徹	高橋 俊明	武田 篤	吉岡 勝	金原 禎子	
				田中 洋康		大泉 英樹		
		再来	武田 篤	吉岡 勝	武田 篤	大泉 英樹	田中 洋康	
			江面 道典		高橋 俊明 馬場 徹	金原 禎子		
	内 科		三浦 明	三浦 明	長崎 明男 (第2・4週)		三浦 明	
	リウマチ内科			苅部 明彦 (循環器専門) ※2				
	小 児 科		小林 康子 (成長発達)	小林 康子	午前 小林 康子 (乳児健診・予防注射) 午後 小林 康子 (第1・3・5週)	午前 小林 康子 午後 大村 清 (小児筋神経)		
	脳神経外科							
	泌尿器科		永松 謙一 (第1週) ※3					
	泌尿器科				東北大学医師 (第2・4週)	武弓 俊一		
	遺伝カウンセリング						午後 苅部明彦または 高橋俊明 ※2	
	もの忘れ外来 ※4		大泉 英樹	田中 洋康	馬場 徹	武田 篤	金原 禎子	
						佐久間博明		
	禁煙外来				武田 篤	苅部 明彦		
	歯 科						佐藤 敦 ※5	

平成31年1月1日 現在

- ※1 脊柱側弯症の新患患者様のご紹介は、側弯症外来日（金曜）にお願い致します。
- ※2 内科火曜日の循環器専門外来及び金曜日の遺伝カウンセリング外来は完全予約制です。
- ※3 脳神経外科は主にパーキンソン病に関連した診療を行っています。
- ※4 もの忘れ外来は診療情報提供書が必須で完全予約制です。
- ※5 歯科外来は主に入院患者の診療を行っています。



独立行政法人国立病院機構
仙台西多賀病院

（東北道を利用して来院される場合は仙台南ICをご利用下さい。
（東北道～山田ICまた、山田IC～東北道はご利用できません。）

